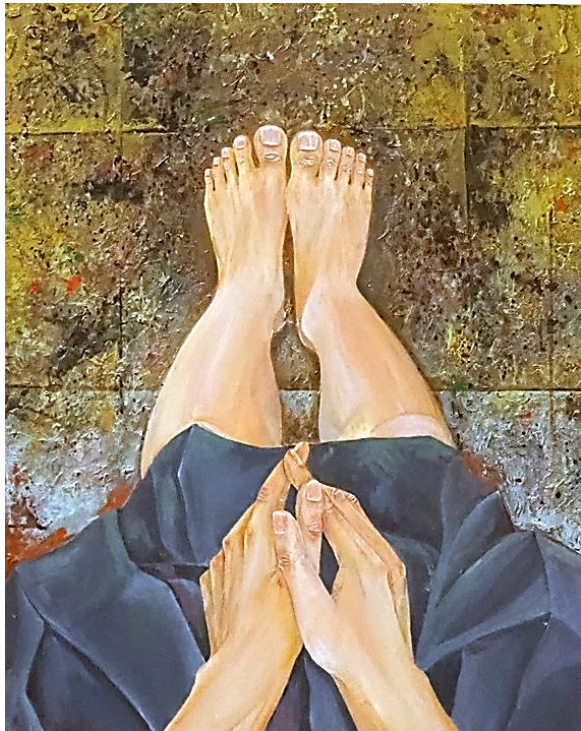




群馬県立伊勢崎高校美術部に所属する生徒の作品です。美術の授業や部活動指導を担当した飯塚直也先生に紹介していただきます。コロナの時代を生きる若者たちの思いを感じ取ってください。



この作品は、手と足の表情を描写することにより、本人の現在の心境を表出しました。



友人が雨の日にももの思う様子を描きました。意図的に、凹面鏡に映ったような表現にしています。



男子生徒の作品です。タッチの激しさなどに思いを込めたものです。

コロナ禍の中の部活動は、創作時間の制限やソーシャルディスタンスに気を遣うなどの難題がありました。この経験したことのない状況にあって、生徒たちの心にも少なからず鬱々としたものを感じることがあります。しかし、美術（創作活動）は、内面に向かうエネルギーをむしろプラスに転化することもできる活動であり、作品にその想いを込めることもできます。

油絵の二作は、自分や友を見つめることに深みを加えているように思います。技術的には不十分な面がありますが、味わいのある作品に仕上がったと思います。サッカーボールを描いた男子は、この一年ひたすら日常にあるものを描き続けています。学校にうまく適応できない自分や社会の欺瞞と向き合う中、素描という行為に熱中することで心の平衡を保っている生徒です。作者については匿名とさせていただきます。